

令和5年度「市小・中連携研修会」研究のまとめ

1 グループ番号20（紫原中ブロック：紫原小学校・広木小学校・向陽小学校・紫原中学校）

2 令和5年度 グループの研究主題

テーマ 小・中連携を通じた不登校対策
～「学習指導」・「生徒指導」・「特別支援教育」の視点から～

3 研究主題設定の理由

近年、小・中学校で増え続けている不登校児童・生徒に焦点を当て、少しでも不登校児童・生徒が減っていくように小・中学校が連携し合って、解決の糸口をつかんでいきたい。

そこで、今年度から、「小・中連携を通じた不登校対策」という主題を設定することにした。学習指導においては「確かな学力を身に付けさせるための手立て」、生徒指導においては「児童・生徒理解および家庭との連携」、特別支援教育においては「つながりのある特別支援教育の取組」という観点で研究を進め、不登校児童・生徒が少しでも減るような小・中学校連携を展開していきたい。

4 本研究の視点

- (1) 不登校児童・生徒を生まないようにするために、学習指導、生徒指導、特別支援教育において課題は何かを明確にし、今年度の共通実践事項について検討する。
- (2) 学校相互の職員を知り、親睦を深めることで、小・中連携の更なる充実を目指す。

5 研究計画

期 日	会 名	場 所
令和 5年4月19日（水）	市小・中連携研修会推進委員会	広木小学校
令和 5年5月15日（月）	市小・中連携研修会	広木小学校
令和 6年1月26日（金）	市小・中連携研修会推進委員会	広木小学校

6 研究の実際

(1) 第1回市小・中連携研修会推進委員会 期日：令和5年4月19日（水）

内容：研究主題、研究の視点、研究計画、研修会運営計画等の検討

(2) 市小・中連携研修会 期日：令和5年5月15日（月）

ア 日程

14:05	14:50	15:15	16:15	16:25	16:40
自由参観	受付 25分	分科会【60分】		移動 10分	全体会【15分】
		1 各校発表 各校2～3分程度		1 分科会報告 (各分科会3分程度)	
		2 グループ討議 30分		(共通実践事項の報告含む)	
		3 討議内容報告 5分		2 講評 5分	
		4 共通実践事項協議 10分			
	5 指導助言 3分				

イ 分科会の協議内容と共通実践事項

学習指導：確かな学力を身に付けさせるための手立て

【共通実践事項】

- 家庭学習の充実を図る
- 保護者との連携を密にする
- ICT機器の効果的な活用を推進する
- 1分前黙想で開始時刻を守る習慣を身につける

生徒指導 : 児童・生徒理解および家庭との連携

【共通実践事項】

- ICT 機器（スマホ，ゲーム）のルールづくりを推進する
- 一日の生活リズムについて，親子で作成するように働きかける

特別支援教育 : つながりのある特別支援教育の取組

【共通実践事項】

- 基本的な生活習慣を身につけさせる。（特に，早寝・早起きの習慣）
- 児童・生徒の理解を深め，保護者との連携を図る
- 中学校との連携を図る（進路についての現状等）

- (3) 第2回市小・中連携研修会推進委員会 期日：令和6年1月26日（金）
 内容：今年度の研究のまとめ（成果と課題），次年度の研修内容・日程等の検討
 ア 今年度の研究のまとめ（成果と課題）

【学習指導】

取組の成果	来年度への課題
<ul style="list-style-type: none"> ○ navima の積極的な活用や登校できていない子供とのオンライン授業等，ICT機器の活用で，個に応じた指導を行うことができた。 ○ 各学校における「授業開始時刻を守る」取り組みで，子供の意識も高まり，定着してきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各学校で発達段階に合わせた系統性を明らかにしたり，中学校から小学校へ「求める姿」を明確にしたりして，縦のつながりを意識した指導をしていく。

【生徒指導】

取組の成果	来年度への課題
<ul style="list-style-type: none"> ○ スマホやゲームの使用について，子供や家庭に周知して意識は高まっているが，全く守れず，昼夜逆転して朝起きられずに登校できなかつたり，登校できても体調がすぐれなかつたりしている子供も数名いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スマホやゲームのルールについて，小・中学校で系統性をもたせる。メディアコントロールやスマホ教室等で，保護者の意識を高める。

【特別支援教育】

取組の成果	来年度への課題
<ul style="list-style-type: none"> ○ 早寝早起きやメディアの使い方など，保護者との連携により，前年度より改善が見られる。 ○ 進路について話を聞いたり，個別の支援ファイルを活用したりして，子供理解を深め，保護者と具体的に話を進めることもできた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活習慣が崩れて，授業を受けられず，基礎学力が身につけていないことが多いため，メディア利用や生活リズムについて，小・中学校で，さらに連携を深めていく。

イ 次年度の研修日程・内容等の検討

(ア) 日程

期 日	会 名	場 所
令和6年4月 下旬	市小・中連携研修会推進委員会	紫原中学校
令和6年5月 中旬	市小・中連携研修会	紫原中学校
令和7年1月 下旬	市小・中連携研修会推進委員会	紫原中学校

※ 今後の担当校 R6：紫原中学校 → R7 紫原小学校 → R8 広木小学校

(イ) 研修内容

研究主題，研究の視点については，今年度の課題を基に，来年度の推進委員会で検討する。